

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人秋田大学

1 全体評価

秋田大学は、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げており、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、さらに、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進することにより、全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人の育成を目指している。第3期中期目標期間においては、教育の質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、国際資源学研究科の独自プログラムとして資源ニューフロンティア特別教育コースを実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 令和元年度から国際資源学研究科博士前期課程とインドネシアのパジャジャラン大学において、ダブル・ディグリープログラムを実施することとし、学生募集要項、履修のためのモデルケースを作成し、両大学において学生募集を開始し、その結果、パジャジャラン大学からは1人の学生が令和2年4月から入学することが決定しているとともに、国際資源学研究科の授業がパジャジャラン大学でも受講できるように、遠隔授業システムを構築し、配信できるように環境を整備している。（ユニット「資源学分野を核とするグローバル化の推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 地域企業等と連携した航空宇宙分野の共同研究活動

秋田県、秋田県立大学とともに、「小型軽量電動化システムの研究開発による産業創生」事業を令和11年3月までの10年間実施することとしており、今後「電動化システム共同研究センター」を設置し、産学官共同での小型軽量電動化システムの研究開発を推進するほか、秋田県立大学との大学院共同教育課程「電動化システム工学共同専攻（仮称）」を設置し、専門人材の育成を図ることにより、地域産業の発展に貢献することを計画している。

○ 地域教育界のニーズに応える先導的な取組を推進

附属学校園では、そのミッションの1つである地域教育界のニーズに応える先導的な取組を推進しており、中学校で開発したアクティブ・ラーニング型のグループ学習の手法である「ミエルトーク」を幅広く理解してもらうために、副校長が秋田市中学校校長会において事例発表を行うとともに、「ミエルトーク」による学習方法をまとめたDVDを作成し、各校、関係機関に配付し普及と啓発を行っている。

○ 資源ニューフロンティア特別教育コースの開始

国際資源学研究科の独自プログラムとして「資源ニューフロンティア特別教育コース」を実施しており、プログラム学生に対しては研究指導を行うほか、経済的負担がある学生については、学長主導の年度計画推進経費及び大学の授業料免除制度により、学業支援金受給者11名及び授業料免除者10名の支援を行っている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 卒前卒後シームレスなシミュレーション教育・研修の推進

シミュレーション教育に関する国内外の先進的取組事例として、各種セミナーを開催するなど、高齢社会における医療モデルを構築するために分野横断的に基本的診療能力育成を推進する卒前卒後シームレスなシミュレーション教育・研修を推進している。

（診療面）

○ 患者サービスの改善・充実に向けた取組

これまで各診療科及び入院案内窓口で行っていた入院時の様々な説明や手続きなどを一括して行うことで、患者に総合的・一元的なサービスを提供することを目的として、「入退院支援センター」を設置している。

（運営面）

○ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた取組の推進

学長のリーダーシップの下、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、秋田県新型コロナウイルス感染症対策協議会の会長に、附属病院長が就任し、県内医療機関の支援を実施するとともに、医学部附属病院による発熱外来設置及びトリアージ実施等、新型コロナウイルス感染症への対応に取り組んでいる。

○ 地域の医療需要を踏まえた、都道府県等との地域連携強化

屋上ヘリポートを活用した救急患者の受入れ件数は年々増加(平成28年度：58件、平成29年度：48件、平成30年度：61件、令和元年度：72件)しており、高度医療の提供や基幹災害拠点病院として、地域医療の一層の充実、県全体の救急医療体制強化に取り組んでいる。